

企業行動研究部会議事録（第 286 回）

日 時： 令和 2 年 7 月 13 日(月) 18:00～20:00

場 所： 各位のオフィス or 自宅

出席者： 片方恵子、勝田和行、河口洋徳、北川則道、木下博生、栗栖徳雄、佐久間健、櫻井功男、
出口純輔、中谷仁亮、永井郁敏、比賀江克之、菱山隆二、平塚直、古谷由紀子、古山英二、
堀場政行、松尾 實、丸山千賀子、峰内謙一、(順不同) 20 名

1. 連絡事項

勝田部会長より ZOOM 参集のお礼が述べられ、初参加の会員で弁護士の中谷仁亮氏が紹介され自己紹介があった。引き続き本日のテーマ、提出資料について説明があり第一テーマ提出平塚氏に発言が求められた。

2. テーマ発表及び意見交換

テーマ 1. 経営倫理に関する素朴な疑問 平塚部会員

◇本件はわたしの「素朴な疑問」であって、学問的な論稿となっていない点を先ずご容赦ください。たまには基本的な問題について、気楽に肩の力を抜いて初夏の一夜をみんなで話し合うのも良いのではないか。ぜひ部会員各位のご意見を拝聴いたしたい・・・と考えた次第

◇素朴な疑問

1. 「経営倫理」について

これだけ企業の不祥事が続発し、「経営倫理」という言葉が半ば死語となりつつあるように思える。

(1) なぜ「経営倫理」が世の中・社会に浸透しないのだろうか。

尊重されないのだろうか。

(2) 「経営倫理」という言葉・思想・プラクティスを社会にもっと浸透させるにはどういう方策をとるべきか。

2. 「応用倫理学」の教育体系について

(1) 日本に約 800 の大学・短大があるが、応用倫理の研究・教育が不十分ではないか。

経営倫理を初めとして、環境倫理, AI 倫理, 技術者倫理, 医療倫理, 生命倫理, 政治倫理, その他 喫緊の課題に直面した倫理学領域がある。相互に独立した体系そして一方では学際的な研究・教育体系があってもよい。大学・短大に「応用倫理学部」や上記のそれぞれの学科の設置を文科省や内閣府に要望してもいいのではないか。

(2) 大学の教養・専門課程における「倫理」の必修化についても考慮が望ましい。工学倫理が工学部では必修と聞くが、昨今の政治の世界や中央官庁の振る舞いを見ても、ほかの学部でも「倫理」を必修化すべきではないか、と思われる。

3. 経営倫理学会について

(1) JABES が創立されて 27 年が経過した。JABES は社会にどのような貢献をいただろうか。

(2) 更に発展し、貢献を深めるための JABES の課題は何であろうか。

(3) 社会に対してもっと発信できることはないだろうか。

「リーダーとしての心構え」を深めて、政治家・政界や行政の高官に発信していく必要があ

るのではないだろうか。

4. 参考資料

これらに関連して 読んだ方が良い文献があればご推薦願う。

※説明者のコメント：上記は学会の論議にふさわしい論点メモとなっていないので、ファシリテーターおよび 参加者には「床屋談義」あるいは放談会に堕さないよう、蛇足ながらご協力をお願い申しあげる。

以上

上記の発表を受け、ZOOM 会議参加者全員から多数の意見交換が行われた。

- ・平塚氏の挙げられた 1. 2. 3. について順次議論を進めたく考える。
- ・哲学分野、及び経営学、経済学の 2 側面について、科学化して行こうとの点について議論すべきと思う。
- ・いわゆる企業不祥事問題と経営倫理問題は全く別であると考え。詰まり、ほとんどの企業不祥事は倫理と関係ないと考え。お話しにあった通り、ビジネス・エシックスは米国で始まり水谷氏によって日本に導入された。
その水谷氏が経済学者アマルティアセン氏に「日本には本当に経営倫理学というものが必要なんですか」と質問を受けたという話があるが、その通りで、日本においては、経営倫理というものの必要性は極めて少ないと考える。
※インドの経済学者でアジア初のノーベル賞受賞者、1994 年米国経済学会会長
- ・平塚氏の提言・提案は本質的な問題と受け取り敬服する。確かに倫理という言葉が劣化している。例えば企業の倫理委員会の中から、企業の不祥事が洗い出されることがなかったと感じている。倫理委員会について書いてもらおうとしても、没となるケースが多い。企業の中に平時には倫理委員会を立てるが、非常時にはその存在価値を認めないことが多いと思っている。その査証がことが起こると、経営倫理を強化するという言葉が聞こえず、コンプライアンスを遵守するという言葉になってしまう。最近の企業経営者には、倫理という言葉に対する、自信も覚悟もなくなって来ていると思う。
- ・ご提案内容を自分なりに解釈すると、経営倫理が経営の実践の場や、学会活動の場で、普及実践されていないと考えておられ、結論的には JABES がどうして行くべきかを問題提起されていると考えました。自身もそう考えるが、JABES 自身が実践の場で発言する、意見を発信するなどのことが出来ていないと思う。JABES は研究者の集まりなので、個人としては屡る発信していても、組織として出来ていないことを指摘されているように理解した。JABES としてでは何をすべきかを考えるべきとの考えと思うが、この解釈は如何か？
⇒自身の JABES、BERC、ACBEE の経験を通して言えることは、誰が考えても結論は同じと考えるが、先ず学会の事務局にそういうセンスのある、指導力のある、出来れば人脈のある方がいらっしゃれば、そのようなことが出来ると考える。そうした人件費が学会にはないのかもしれないが、そういう人材を事務局に配置し、事務局機能を強化出来れば、前を向いた活動や、発信ができるのではないかと考える。
- ・私個人は実は人の問題より先に、学会がどうあるべきかを、きちんと議論し、共有して行かないといけないと考えてます。理事や会員がきちんと議論をし、考え方を共有して初めて次のステップに

進めると考えます。そうでないと一人の個人の思いでひっぱられることになるのでダメだと思うが如何か？

⇒その通りだと思うが、そういう議論を進めて行く為にも自分はそのコミュニケーションを推進する事務局が重要だと考えている。

- F氏の発言は非常に重要で、学会がどうあるべきか、何をするかをきちんと議論し決めて行くことが重要先決だと考える。今年度総会では、新ジャーナル発刊などの取組も発表されているが、こうした活動で何を進めて行くかを明確にし、広報活動に進めて行くことがもっと重要だと考える。戦略・戦術を含めて広報活動を充実することが今後の学会活動にとって重要と考える。

- 以前 BERG のサイトに企業不祥事一覧があったが、現在なくなったようだ。他の資料を見ると、なんでもかんでも掲載されており倫理には関係のない単なるミスの様なものも一緒くたになっている。倫理的に問題のある不祥事などをきちんと表現することも重要ではないか。問題意識の薄れがあるのではないかも気になっている。

⇒現在は公開ページではなく、会員ページに掲載している。

申し出があれば内容を紹介することが出来ます。但し著作権は ACBEE になるため使用する場合は ACBEE と相談の必要がある。

- 経営倫理は「死語」になっていると書いてあるが、これが一番の問題。この「経営倫理」の4文字では意味が伝わらなくなっている。例えば論語と算盤と言うと直ぐ意味が伝わる。例えば、日本経営倫理学会の下に、サブタイトルとして例えば『まっとうな商いを目指して』などの言葉をつけるとかの工夫があっても良いのでは？と考えている。

- 今日のお話で少し感じたが、コロナの問題と、この問題は似通ったところがあって、コロナ問題と経済問題をどう回すかという意味で似通っているように思う。以前に経営倫理を取り上げようと提案の折、倫理は暗いよな！と言われ却下されたことがあった。

コンプライアンス委員会とリスク管理委員会を一緒にしようかという話もあった。企業倫理委員会を担当した折の原点に戻って考えると、倫理と道徳はどう違うのか？などの基本問題で先に進まなくなり、暗礁に乗り上げた記憶がある。倫理委員会を置いてある会社は、過去によほどのことがあったのではないかという議論もあった。

- 一頃企業に倫理委員会がないとまともな会社ではないと言われた時もあった。Kさんの発言通りまっとうな、経営をやれと言うのを表現していた会社もあった。横河電機の社員の名刺には、お天道様に顔を向けられないような仕事をするなど書いてあり、グローバル（中近東等）には通じなかったこともあるが、まさにまっとうな仕事をしようと言われていたことを記憶する。先々代の時代。

- 倫理というから、抵抗感があったり、暗さがあるのであれば、ビジネス・エシックスと言ってしまうえば良いのではないか。

- 教育のことについて少しご意見を頂ければ。

- 社会人と学の立場を経験した身であり、会社の代表もやっているが、経営倫理という言葉がそれほどメジャーになっていないのかもしれないが、これまで30年間働いてきた身として考えると、関連する様々な事柄については、理解が進んでいるように感じている。一方大学の学部・学科でも、利益と倫理はある程度折り合いが必要な環境となってきたと感じている。

倫理感も時代とともに変化するので、この先にどんな倫理観が求められているかもきっと検討し

ていかないといけないと思っています。

応用倫理という事が言われ、AIの議論もあったが、こうした分野は、専門化が進んでおり、例えば脳死での臓器移植も欧米と、日本では受取り方、考え方の格差もまだ横たわっており非常に難しい問題をはらんでいると考える。

- 関連する分野として現在、消費者情報論を大学で教えている。例えば消費者問題や公益通報者保護について講義を行うこともある。そうしたところで、経営倫理に関することも触れて行くことが重要と考えているところだ。こうした取り組みのなかで得られた情報なども今後皆様と共有して行きたい。現在はPCで資料を作成し、配信やライブでの配信などを活用しながら実施。
 - 倫理学から入りその上で応用倫理学も説明しないと理解できないと思う。
 - 経営学から入りリスクマネジメントから、経営倫理に言及する形もある。
 - 倫理学については、3つすなわちカントの義務論、ベンサムの道徳および立法の諸原理序説、アリストテレスのニコマコス倫理学を読めば足りる。
 - 私は倫理とは何かというようなことについても必ずしも理解していませんでしたが、最後の方で倫理とは『他者の役に立つこと』というくだりを聞きすごく腑に落ちた感じがした。会社を営み、他社の為に貢献したいと素直に考えている人が増えているように思っています。倫理が、暗いというお話もあったが、今後この分野はさらに発展し重要な分野になってくると思っている。
 - 実務家ですので、本日の疑問に対して具体的な答えを示したい。先ず1番目と3番目は根幹的な問題であるが、学会として答えが確立しているとは思えない。だから本日の問題提起になったのであろう。ついでに、会長・執行部や理事会が（毎年度初めに）議論してその解（問題意識と解決の具体策）を共有すること、第二に、新ジャーナルの基本的構想はそれに沿って進めること、第三に、来年の研究大会のテーマとして採択し、会員が認識を新たにすること、第四に、30周年に向けて学会の使命をどの様な方向性で進めるのか、今から委員会などを立てて準備を進めること、である。
- もう一点、学会として倫理的な重大事件の折には経団連の記者クラブでレクチャーをすることも大切。そうすると記者たちも経営倫理という事を改めて考え、その見地で深く議論すると思う。教育については、工学系が修士課程を含む6年制に実質的に移行していることにかんがみ、文科系も6年制にしたらどうか。科学の飛躍的な発展や不確実性が高まる時代にあって正しい方向性を見極めることが重要になっている。先ず基本的なリベラルアーツを学び、そのあと専門課程を深める。その間に哲学や倫理・応用倫理もしっかり勉強する。そうした6年間の教育で倫理観・人格を陶冶した人材を育てることが大切と考える。一例として、米国の一流紙の新聞記者の育て方を横目で見て、そう考える次第。
- 特にはないが、そもそも質問が間違っているのではないかというのが率直な感想だ。スタティックな観念論の話ばかりで、今の人達が求めているもの技術は、現場でそれぞれの場の中で自分がどうアプローチして答えをつかみ決定するかという事だ。徳目的な知識で頭を固めるのではなく、現代は絶えず変化する複雑系の世の中だから、その都度自分で識別できるようにする。一人より2人の方が良い。学生も自分でテーマを探しそれをよくするためのオリエンテーションを行う。今どちらかと言うと観念論的な話が多いように感じている。
 - 倫理とは何かと言う話を聞いていて、むしろ分からなくなってきたが、基準となることって何なの

か一層わからなくなってきた。見方がいろいろあるから話が難しくなるのかと感じている。消費者の為になるのかとかSDGsに何が重要かといろいろな議論になってしまう。

- ・梅津先生に最初に教わった自動運転選択テーマが最初で、興味を深め現在に至っているので大いに今後も学習したい。
- ・こういう、倫理とか組織とかいう話をしていると何のためにという事を忘れがちである。そこを軸として、透明化を進め共有し、そこから正しく話せることが重要だと考える。自分が扱われたように扱う等、利他主義的な発想で、評価して進むことに尽きると思う。
- ・中小企業の大多数の人たちが、倫理や経営倫理は自分たちの守備範囲に入っておらず、一般的な正義を土台に活動している。経営倫理とは、村社会の中での価値観だけではなく、もっと広い範囲で見た場合どうなのか？を考える尺度のようなものかと現在考えている。
- ・ディスカッション自体にはほぼ入れなかったが、平塚氏より大学に何故経営倫理という科目がないのか？との宿題をもらった。時間を頂戴してある程度の回答を行いたい。
- ・あるグローバル調査の中で会社の為には財務的な不正をしても仕方がないとの回答が45%あるという事実を改めて認識する必要がある。

以下略

3. その他

勝田部会長より今年は新ジャーナルが開始されることもあり、様々な角度で学会活動も変化して行くものと考えております。皆様も注視して、こうした活動に加わることや、方向付けに対し積極的な発言をされることを期待するとのこと述べられ、併せて8月17日も同様な形で実施するとの報告があり、各位からのテーマだしの依頼が行われ終了した。

以上

議事録送付先(敬称略)：

[部会員]：秋山和久 安藤 顕 石川英男 井上真由美 岩倉秀雄 上原利夫 遠藤梨栄 大泉英隆 大沼久美 岡本伊万里 岡田佳男 小澤彩子 小畑哲哉 片方恵子 勝田和行 加藤隆一 河口洋徳 川村正彦 北川則道 木下博生 銀山一浩 熊本一夫 熊本えり 栗栖徳雄 桑山三恵子 剣持 浩 小池裕子 小池恒平 小松久夫員 小松昌子 近藤成径 西藤輝 櫻井功男 (順不同) 佐久間健 佐藤陽一 柴柳英二 潜道文子 高橋太一 武谷 香 田村尚子 出口純輔 徳山 誠 永井郁敏 那須一貴 西村秀美 根本三千夫 野崎篤彦 野瀬哲郎 比賀江克之 樋口晴彦 肥後文雄 菱山隆二 平塚 直 古谷由紀子 古山英二 堀場政行 増澤洋一 増淵隆史 松尾 實 松本邦明 丸山千賀子 宮澤直幸 峰内謙一 向井恒泰 森田 充 森 敦子 森下和代 山中 裕 山本明男 中谷仁亮

[学会本部]：潜道会長 梅津前会長 水尾前副会長 高橋元会長 内田事務長